認　定　書

国住指第 2056 号
平成 21 年 9 月 14 日

写

ニチハ株式会社
代表取締役社長　井上　洋一郎　様

国土交通大臣　　金子　一義

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二及び同法施行令第 107 条の 2 第二号（軒裏：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
   QF030RS-0154

2. 認定をした構造方法等の名称
   両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

3. 認定をした構造方法等の内容
   別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別　添

1. 構造名：
両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 申請仕様の寸法：
申請仕様の寸法を表1に示す。

表1　申請仕様の寸法

項　目	申　請　仕　様
軒の出	1000mm以下
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2　申請仕様の主構成材料

項　目	申　請　仕　様
被覆材	材料：両面化粧有機質系繊維混入セメント板 組成： セメント質原料　70(±7)質量% 無機質混和材　22(±7)質量% 有機質繊維　6(±2)質量% 有機質混和材　2(±1)質量% 但し、 セメント質原料：セメント、けい酸質原料等 無機質混和材　：パーライト、マイカ等 有機質繊維　：パルプ、合成繊維等 有機質混和材　：パルプ粉等 塗料(表裏面) 材料：1)～6)の一 1)アクリルウレタン樹脂系塗料 2)アクリル樹脂系塗料 3)アクリルシリコーン樹脂系塗料 4)ふっ素樹脂系塗料 5)エポキシ樹脂系塗料 6)ポリシロキサン樹脂系塗料 塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)
	密度：0.9(−0.1)g/cm³以上
	形状： 1)表面形状 厚さ：11～25(±1)mm 幅　：455mm以上 2)断面形状(図6参照) 最低板厚(中実部)：9mm以上 容積欠損率(模様深さ)：9.5%以下 (但し、板厚11mmを超える場合は裏面から11mmの位置での欠損率とする) 3)表面の形状：①～④の一 ①平滑 ②平滑・溝加工 ③エンボス ④エンボス・溝加工
野縁	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：500mm以下
吊り木	材料：①又は② ①なし ②日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：500mm以下

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3　申請仕様の副構成材料

項　目	申　請　仕　様
目地部材	材料：①、②又は③(図6参照) ①突付け目地 ②金属ジョイナー ジョイナーの材質：1)～7)の一 1)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) 2)溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) 3)溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 4)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く) 5)熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) 6)冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) 7)溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070) 厚さ：0.25mm以上 形状：H形又はT形 塗料(あり又はなし)：1)～7)の一 1)アクリルウレタン樹脂系塗料 2)アクリル樹脂系塗料 3)アクリルシリコーン樹脂系塗料 4)ふっ素樹脂系塗料 5)エポキシ樹脂系塗料 6)ポリシロキサン樹脂系塗料 7)ポリエステル樹脂系 塗布量：300g/m²以下(有機固形分量) ③本実・合いじゃくり目地 端部形状(外装材相互の重なりと隙間、図6参照) 重なり：6mm以上、隙間：3mm以下 ・目地部防水材 材料：1)又は2) 1)なし 2)合成ゴム 使用量：5g/m以下
留付材	被覆材固定用： 材料：①、②又は③ ①リングくぎ ②スクリューくぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.3×長さ38mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.0×25mm以上 留付間隔：227mm以下 取付方法：野縁並行組又は野縁梯子組

つづく

つづき

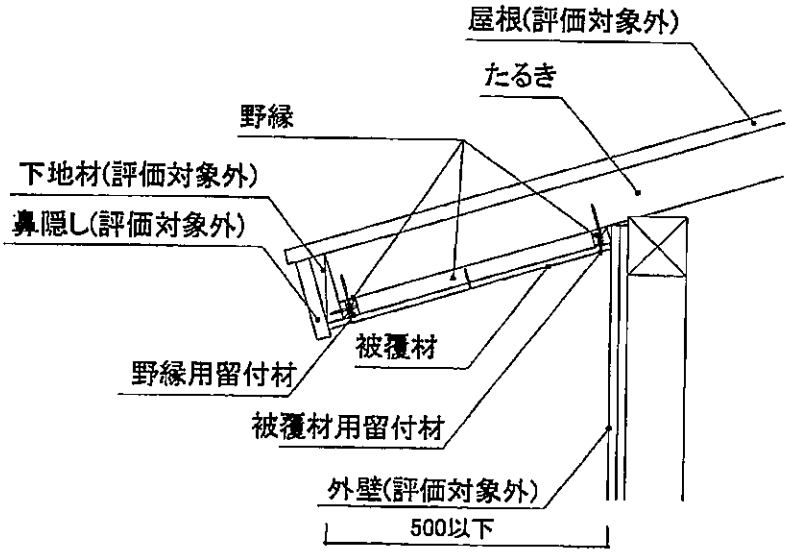
留付材	野縁固定用(たるきへの固定)： 材料：①、②又は③ ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N75以上 ②くぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.75×長さ75mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.5×40mm以上 留付間隔：500mm以下
	野縁固定用(鼻隠し下地への固定)： 材料：①、②又は③ ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N50以上 ②くぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.75×長さ50mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.5×40mm以上 留付間隔：500mm以下
	吊り木固定用(吊り木を用いる場合)： 材料：①、②又は③ ①リングくぎ ②スクリューくぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.3×長さ50mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.0×45mm以上 留付間隔：227mm以下

5. 申請仕様の構造説明図：

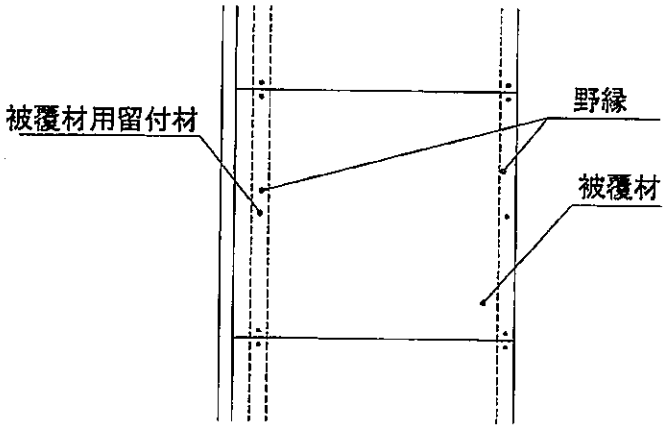
申請仕様の構造説明図を図１～図６に示す。

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

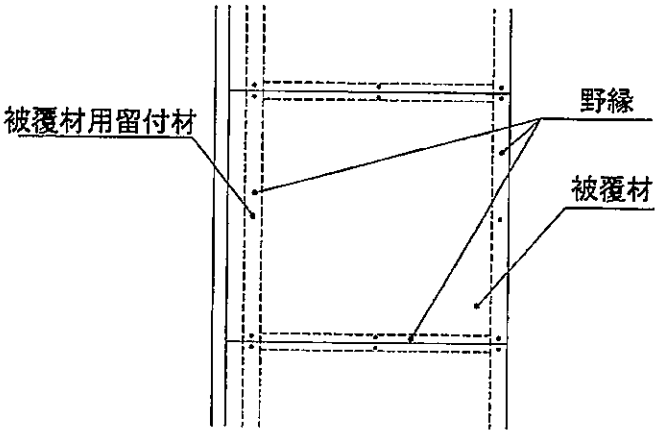
単位 mm



軒部詳細図



被覆材平面図(野縁平行組)

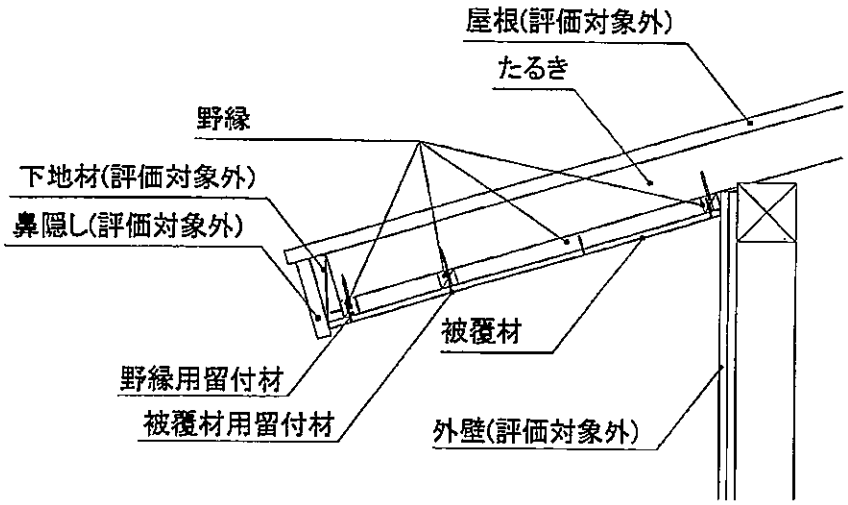


被覆材平面図(野縁梯子組)

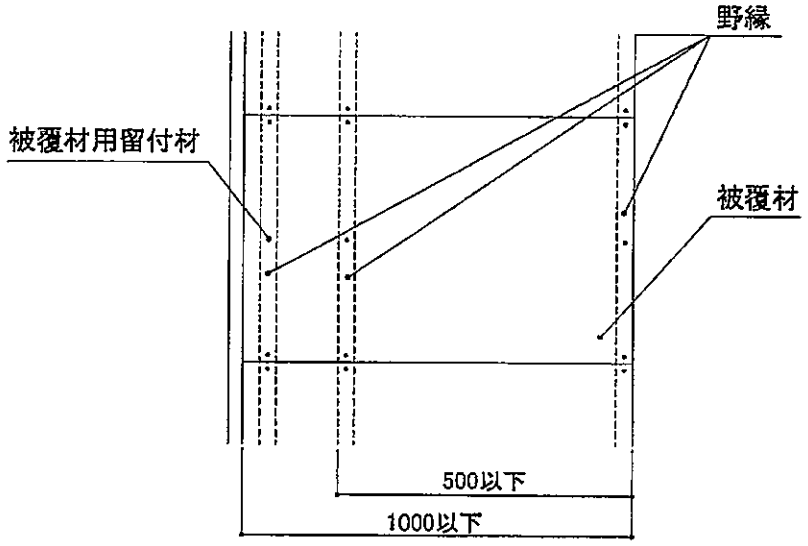
図1　構造説明図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

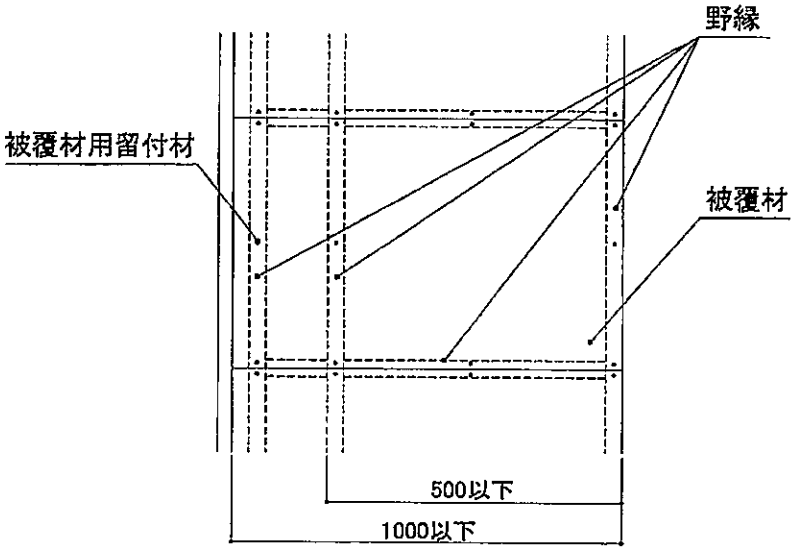
単位 mm



軒部詳細図



被覆材用平面図(野縁平行組)

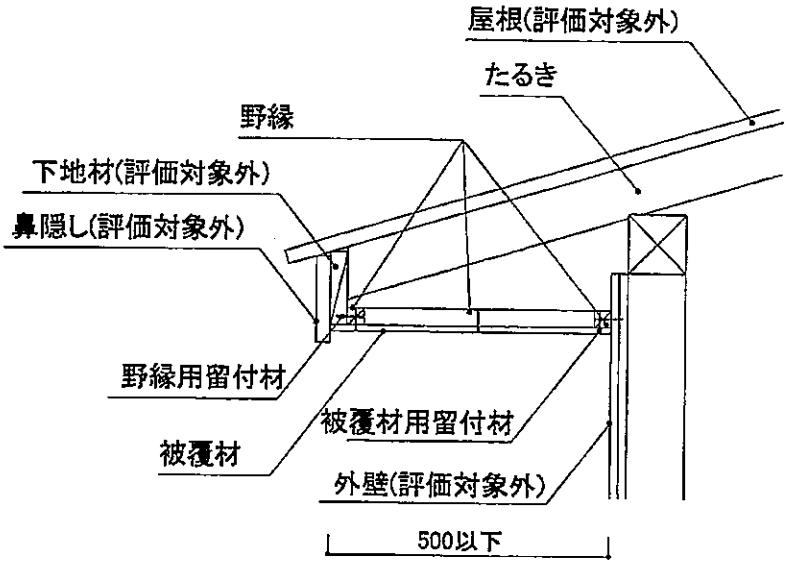


被覆材平面図(野縁梯子組)

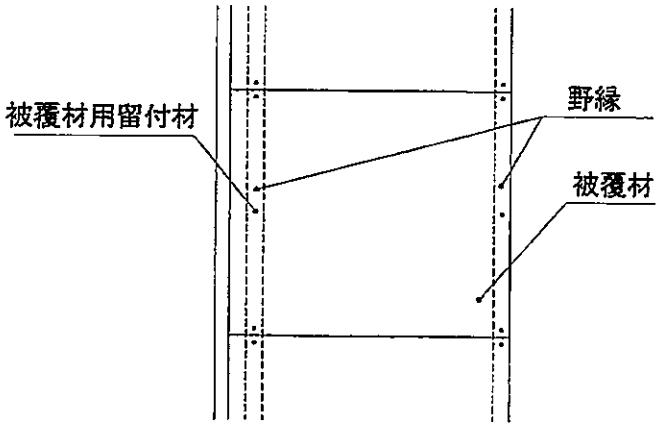
図2 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

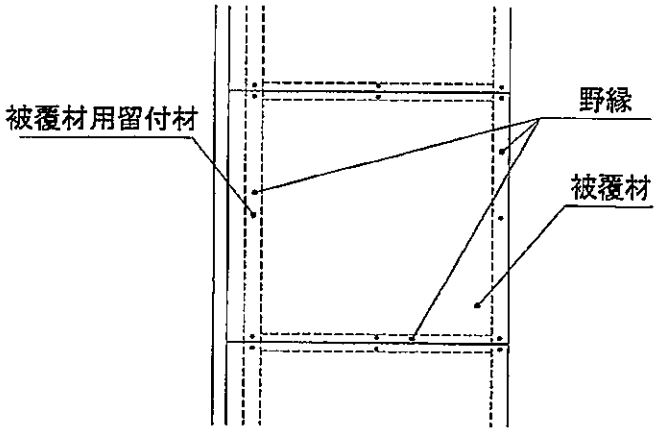
単位 mm



軒部詳細図



被覆材平面図(野縁平行組)

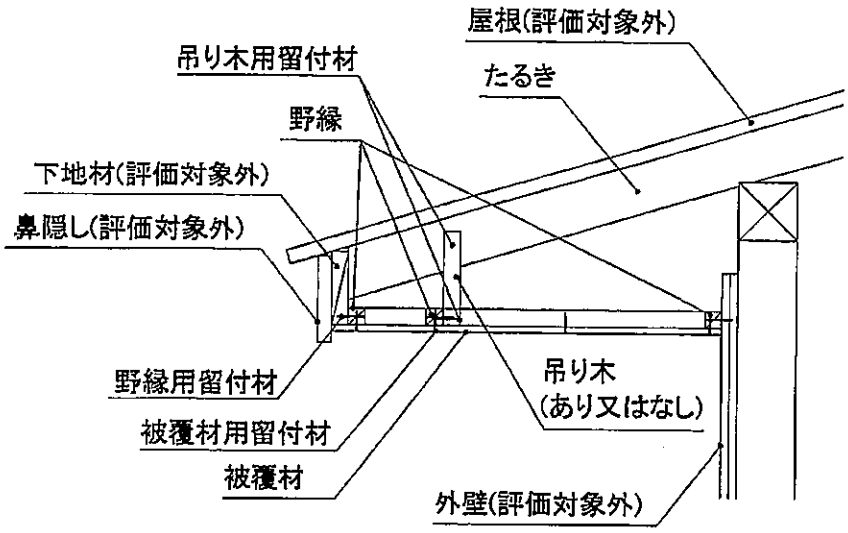


被覆材平面図(野縁梯子組)

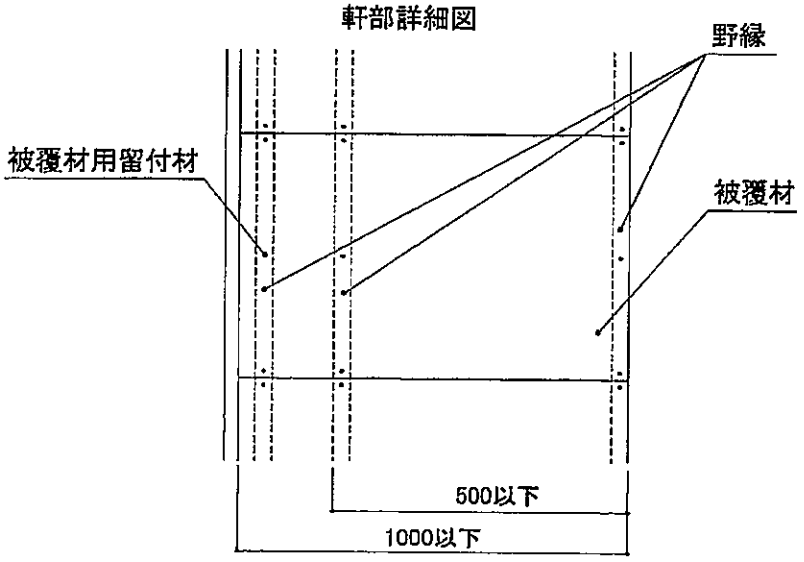
図3 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

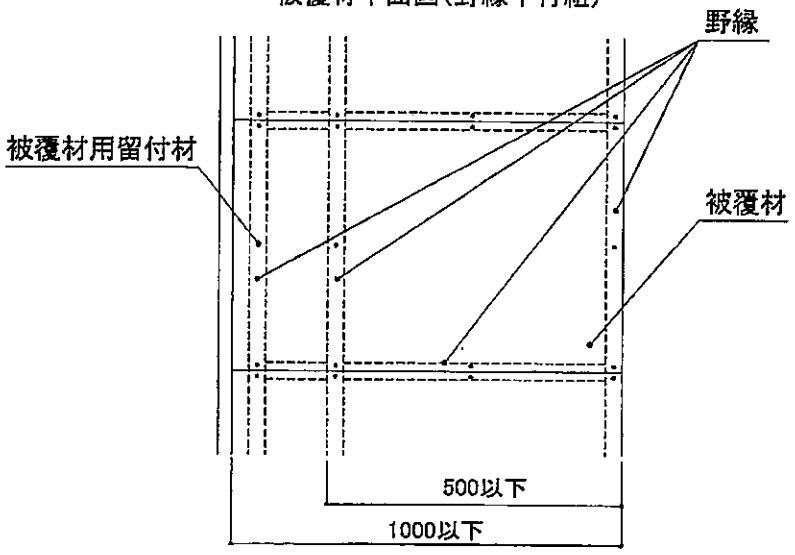
単位 mm



軒部詳細図

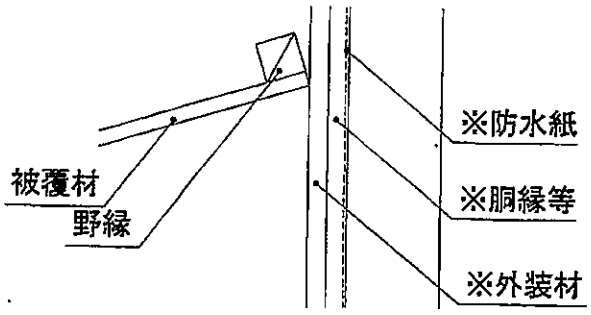


被覆材平面図(野縁平行組)

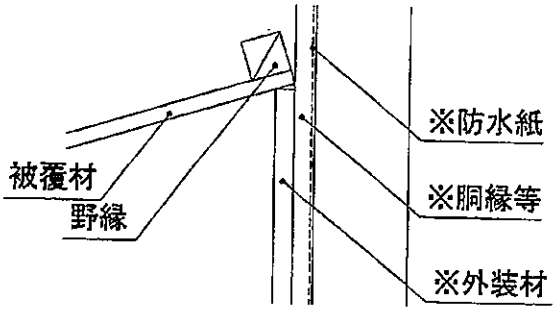


被覆材平面図(野縁梯子組)

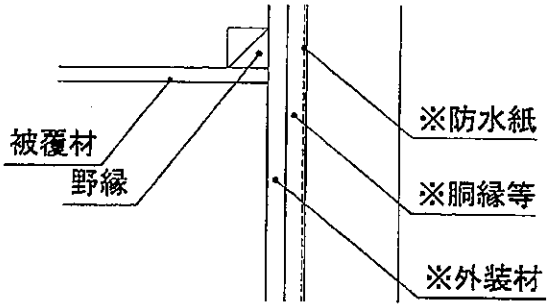
図4 構造説明図



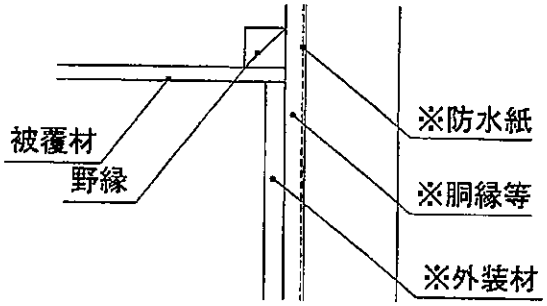
①被覆材勾配、外壁材勝ちの場合



②被覆材勾配、被覆材勝ちの場合



③被覆材水平、外壁材勝ちの場合



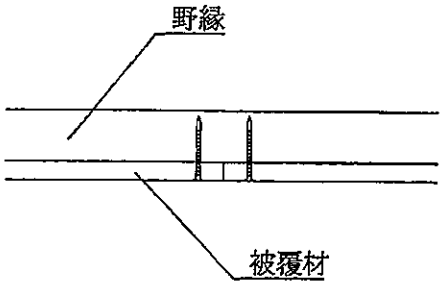
④被覆材水平、被覆材勝ちの場合

※:評価対象外

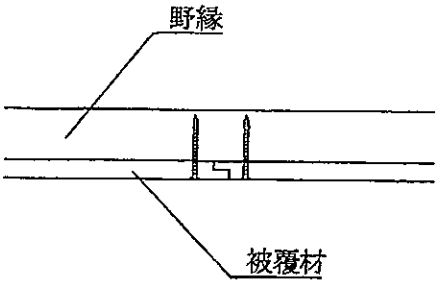
軒元の納まり図

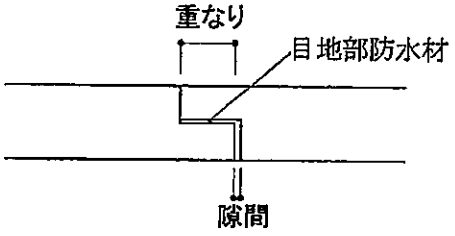
図5　構造説明図

①突付け目地



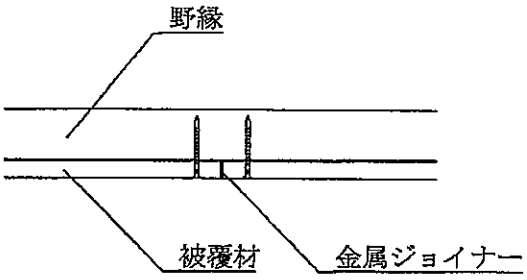
②本実・合いじゃくり目地



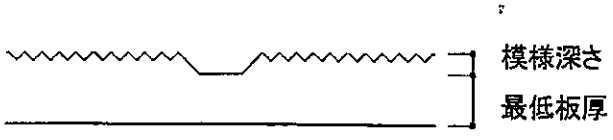


合いじゃくり形状

③金属ｼﾞｮｲﾅｰ目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図6 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図７～図１０に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1)たるきの取付け

屋根材にたるきを取付け、たるきに下地材を取付ける。

(2)野縁の取付け

1)軒の出(被覆材長さ)が500㎜以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に配置し、取付間隔が500㎜以下となるよう、野縁固定用留付材を用いて下地材、たるきに取付ける。

2)軒の出が500㎜以上の場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で取付ける。

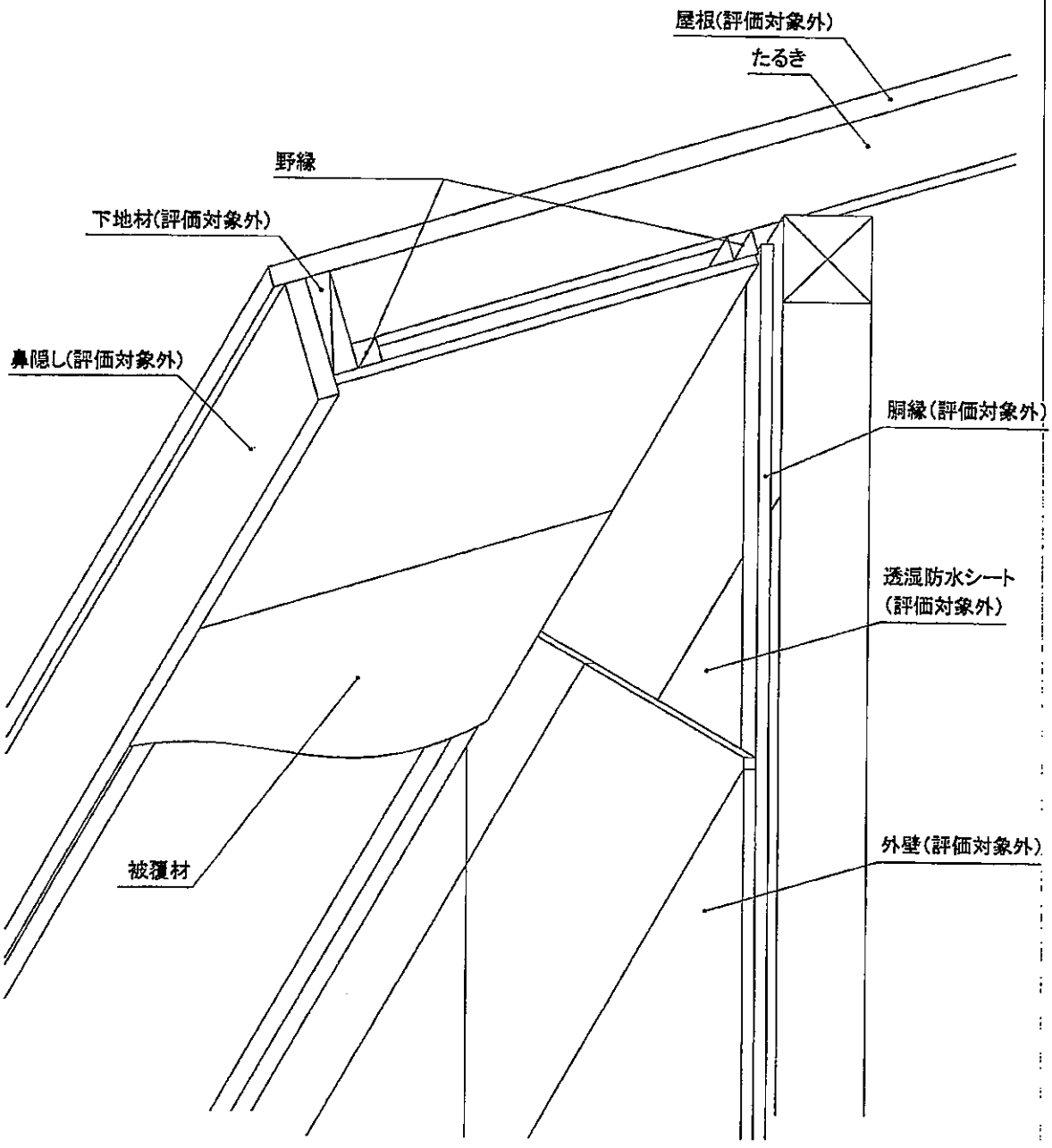
(3)被覆材の取付け

1)被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁に取付け、取付方法は並行組又は梯子組とする。

2)目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3㎜以下とし、重ね代は9㎜以上とする。

3)被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

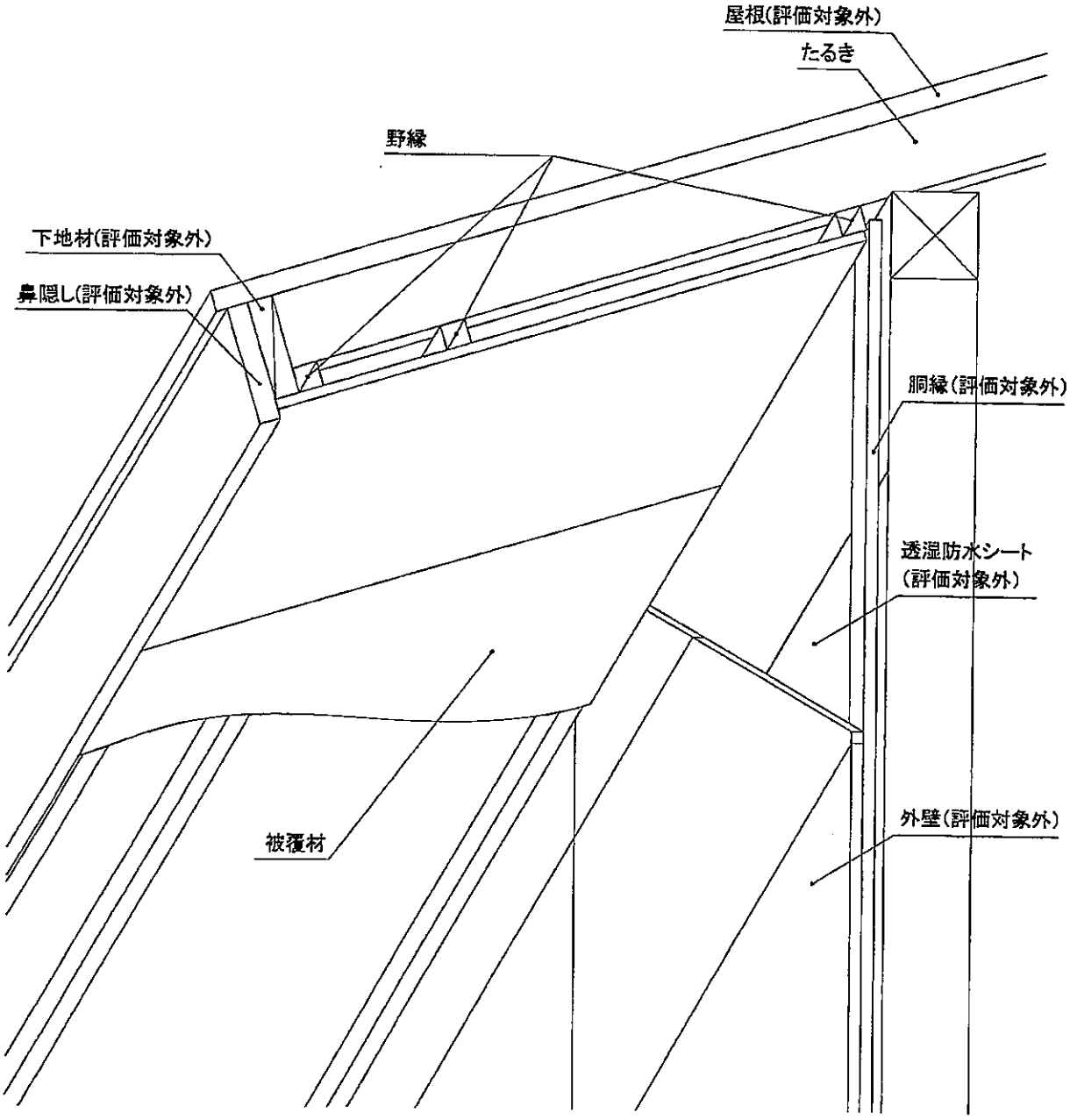
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

図7 施工図

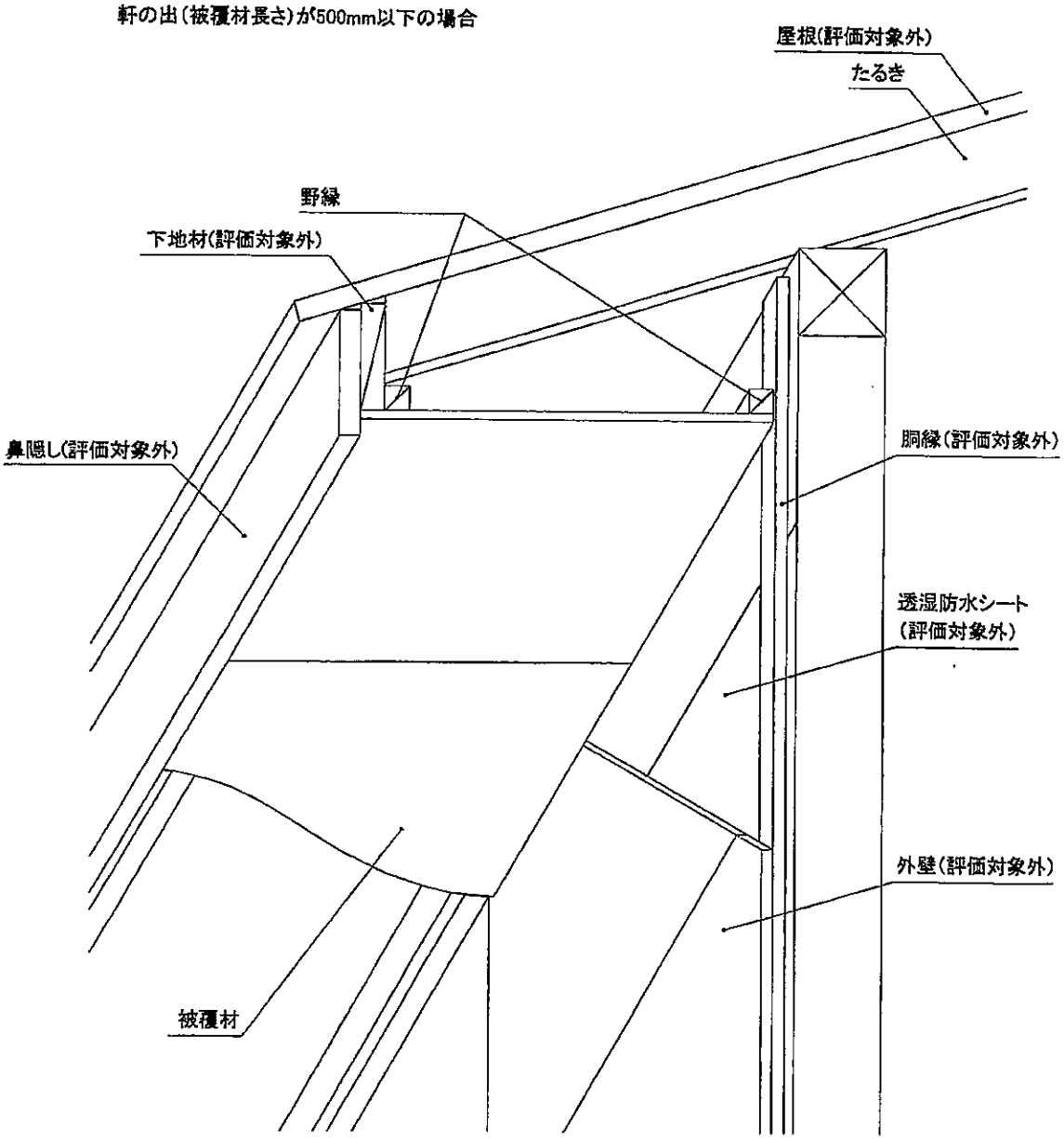
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合



透視図

図8 施工図

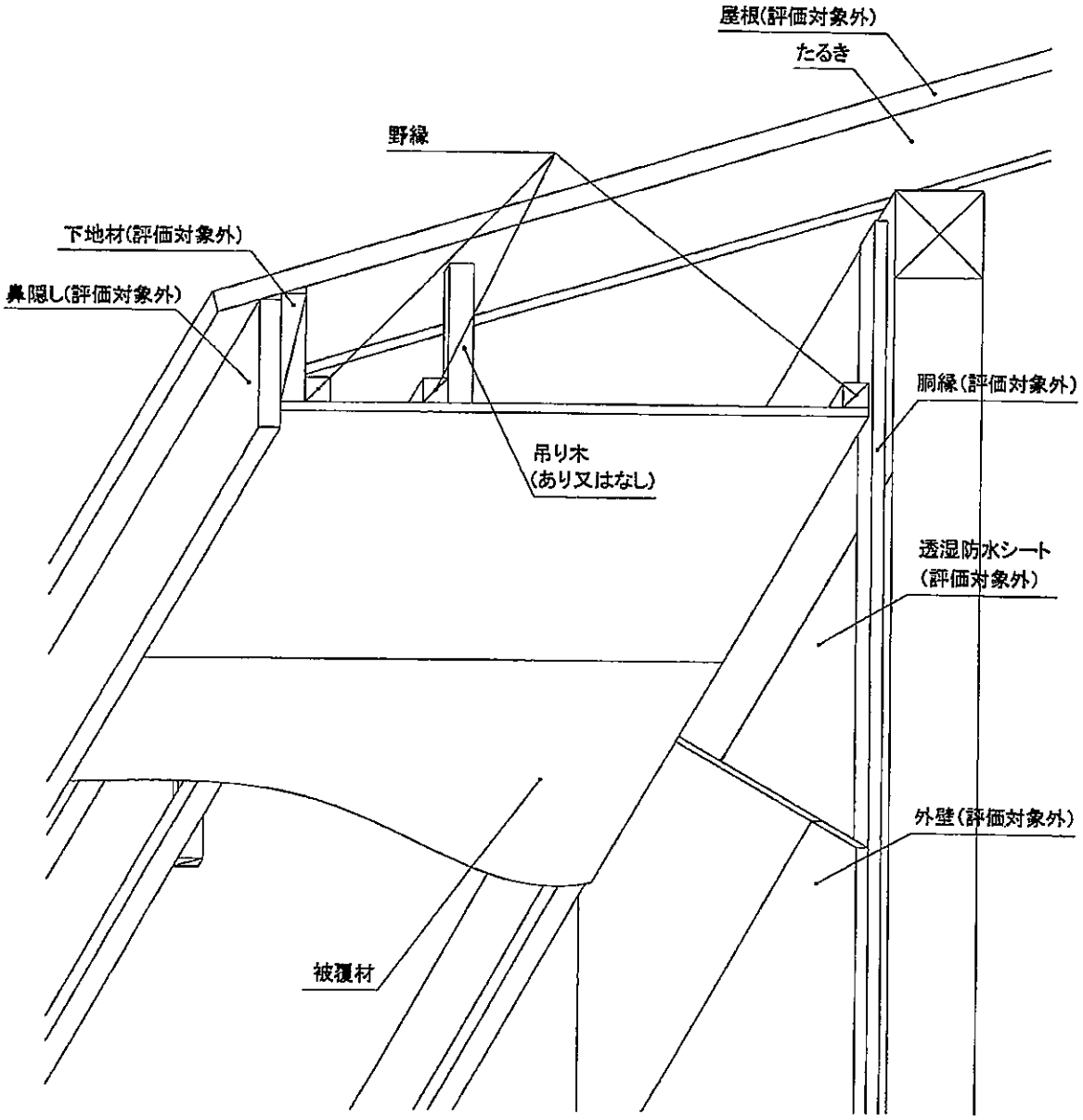
被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

図9 施工図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合



透視図

図10 施工図